

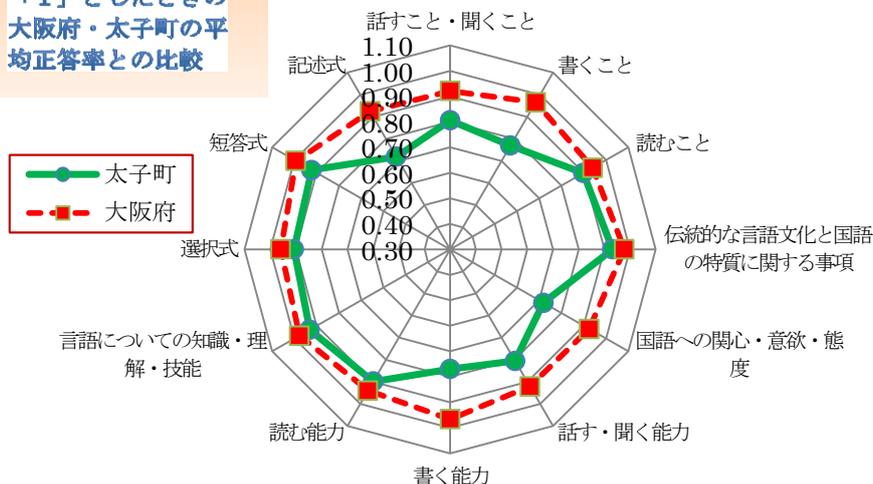
平成 25 年度 全国学力学習状況調査

国語 A

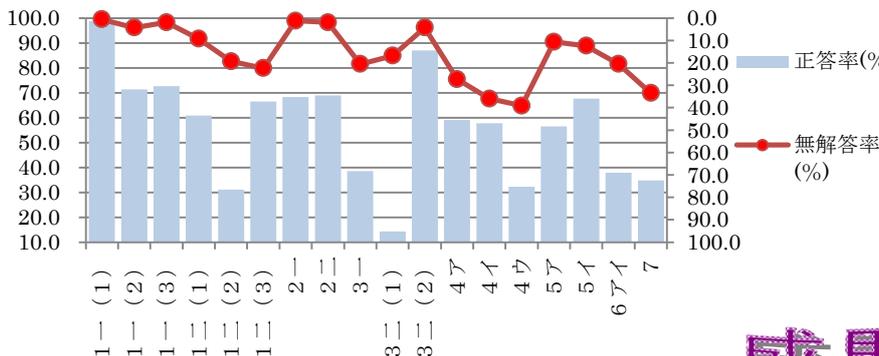
書く力・記述式問題に依然として課題が見られ、基礎的・基本的な知識・技能の定着が不十分

太子町平均正答率 56.9% 「平均正答率 全国比 -5.8Pts 大阪府比 -4.3Pts」

全国平均正答率を「1」としたときの大阪府・太子町の平均正答率との比較



☆ 設問別平均正答率と平均無解答率 ☆



書くこと

★目的に応じて資料を読み、全体からわかることを書く[4ウ]。

記述式

★複数の内容を含む文について、主語と述語との関係や接続語の役割を押さえながら文を分析的に捉えること[3二(1)]

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

☆今回の漢字の読みについては正答率が高い
★今回の漢字の書きの定着には課題がある

話すこと・聞くこと

★スピーチの表現を工夫すること[7]

読むこと

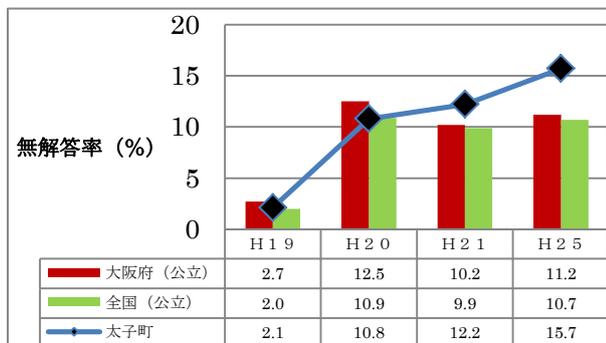
★俳句の情景を捉えること[6]

全体的な状況

★下の学年で習得しておくべき基礎的な知識の定着が不十分

成果と課題

無解答率の経年比較



太子町における無解答率は年々増加傾向にあり、前回に引き続き、府・国の平均値より多く、またその差が広がっている。

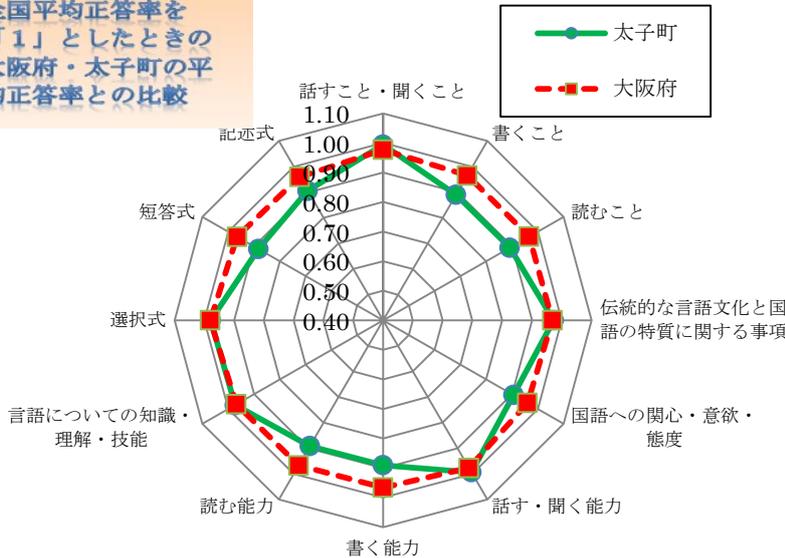
書く能力・記述式問題について府および国の平均正答率より低く昨年度（大阪府学力調査）から引き続き課題が残る結果となった。本年度も「書く力・記述式問題」について課題が見られ、特に「3二(1)」は「文の意味のつながりを考え、書くこと」を見取る設問であるが、正答率が15%を下回る結果となった。ただ、昨年に引き続き「国語の授業がすき」と答えた児童の割合が多く、意欲的に取り組む姿勢が見られる。また、漢字力については、設問によって差はあるものの、比較的正答が多く、漢字学習の取り組みの成果が少しずつみられる。

今回の傾向として「無解答率」の増加が見られる。結果を受け、今後は授業での基礎基本の徹底はもちろんのこと、家庭での学習についてもより具体的な取り組みが必要である。また、最後まであきらめずに問題に取り組む姿勢も必要である。

目的や意図に応じ、自分の考えをまとめ、書くことが課題

太子町平均正答率 45.5% 「平均正答率 全国比 -3.9Pts 大阪府比 -2.4Pts」

全国平均正答率を「1」としたときの大阪府・太子町の平均正答率との比較



書くこと

★目的や意図に応じ必要な内容を適切に引用したり複数の内容を関連づけながら自分の考えを書く[2二・三]。

話すこと・聞くこと

☆話し手の意図を捉えながら聞き、適切に助言をすること [1二]

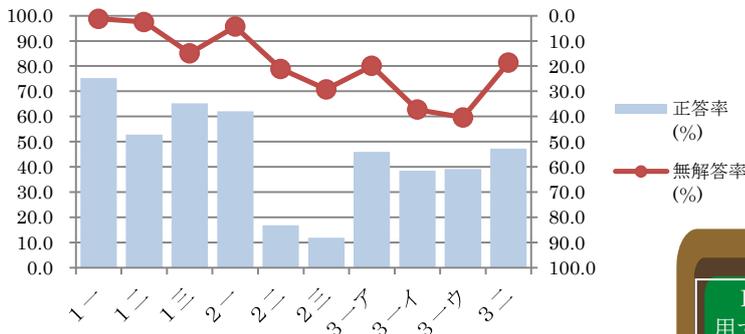
読むこと

★推薦文を読み比べて読み、推薦している対象や理由、それぞれの本や文章の読み方の違いを捉えること[3一・二]

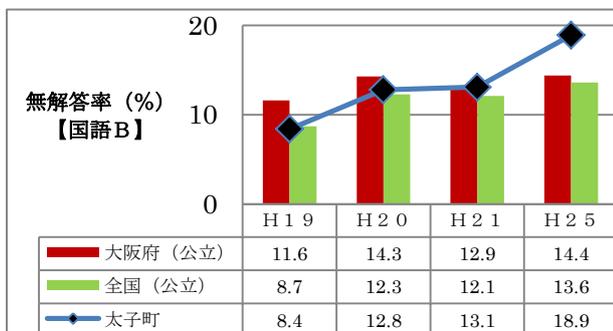
全体的な状況

★目的や意図に応じ、複数の内容を関連づけながら、自分の考えを書くことに課題がある[2三]

☆ 設問別平均正答率と平均無解答率 ☆



無解答率の経年比較



太子町の無解答率は前回調査まで、府・国の平均値と同様の数値で推移していたが、今回調査ではその差が広がった。

成果と課題

B問題では、基本的・基礎的な知識・技能を活用することができるかを見る設問が出され、太子町の平均正答率は、大阪府・全国平均を下回る結果となった。

児童質問紙によるアンケートで「感想文や説明文を書くことは難しい」「自分の考えを他の人に説明したり文章に書いたりすることは難しい」と答えた児童は大阪府・国より多い。授業において言語活動の充実を掲げ、授業研究を推進している途上だが、この結果を踏まえ、児童の実態に応じた工夫改善が必要である。

一方、話し手の意図を捉えながら助言することを問う設問では、全国・府平均を上回っており、読書タイムや読み聞かせなどの取り組みが定着に繋がっていることも分析できる。

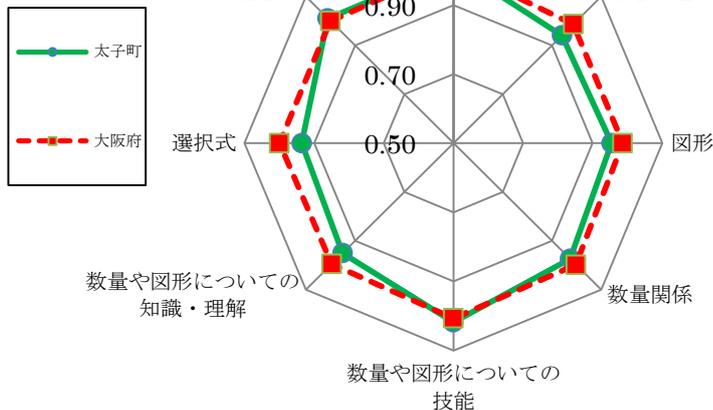
以上のことより、児童は自分の考えを持ち、他の意見を聞く力はあるが、それをまとめ、発信していく力の育成が必要であり、日々の教育活動の中で言語活動の充実を念頭に入れた取り組みを進めていく必要がある。

平成 25 年度 全国学力学習状況調査

算数 A

基本的な計算力の定着が見られたが、単位量あたり・図形分野は課題が残る
 太子町平均正答率 75.8% 「平均正答率 全国比 -1.4Pts 大阪府比 -1.3Pts」

全国平均正答率を「1」としたときの大阪府・太子町の平均正答率との比較



数と計算

★四捨五入で数を適切に処理する方法についての理解 [2]

量と測定

☆測定の目標に応じて計器を選択すること [5(1)]
 ★単位量あたりの大きさを求める除法の式と小の意味を理解すること [4]

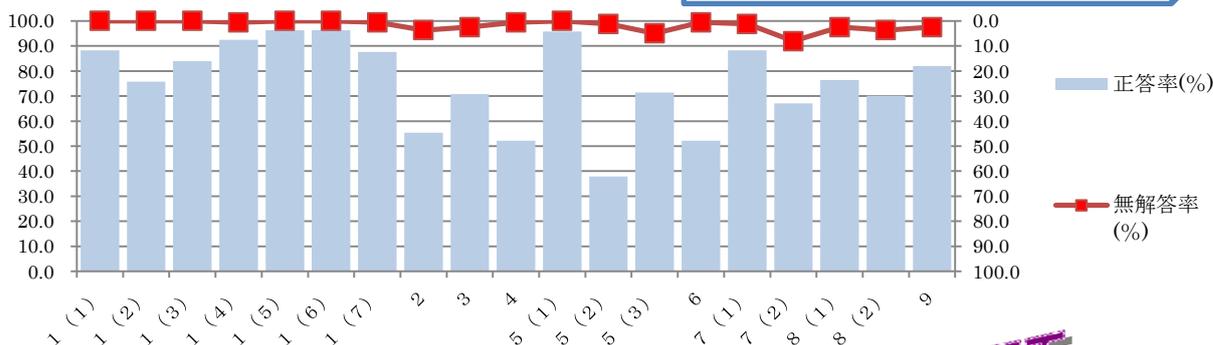
図形

★合同な図形をかくために必要な条件を理解する [6]

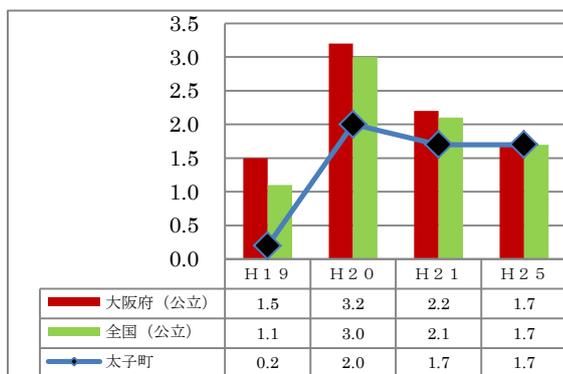
数量関係

☆棒グラフの目盛りの数値に着目して最大値を読み取る [9]

☆ 設問別平均正答率と平均無解答率 ☆



無解答率の経年比較



太子町の無解答率は、国・大阪府とほぼ同数であるが、町としてはH20以降ほぼ変化がなく改善に向けて取り組む必要がある。

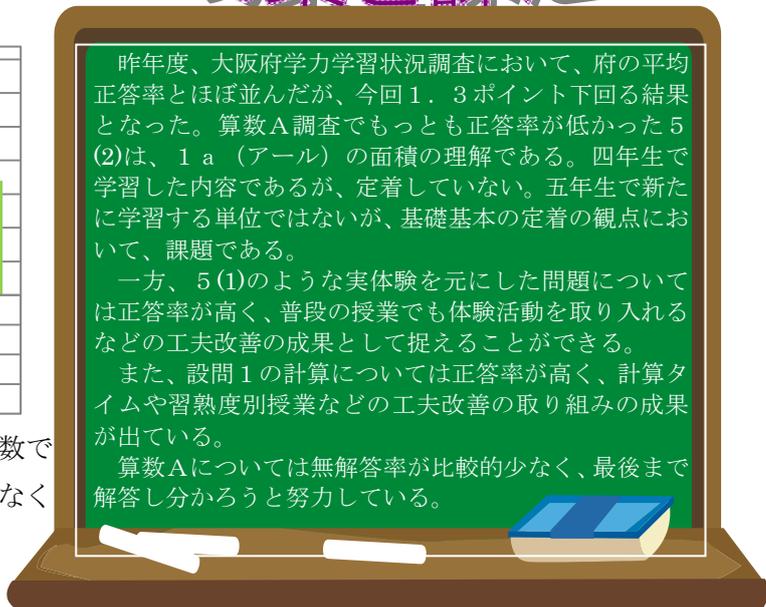
成果と課題

昨年度、大阪府学力学習状況調査において、府の平均正答率とほぼ並んだが、今回1.3ポイント下回る結果となった。算数A調査でもっとも正答率が低かった5(2)は、1a(アール)の面積の理解である。四年生で学習した内容であるが、定着していない。五年生で新たに学習する単位ではないが、基礎基本の定着の観点において、課題である。

一方、5(1)のような実体験を元にした問題については正答率が高く、普段の授業でも体験活動を取り入れるなどの工夫改善の成果として捉えることができる。

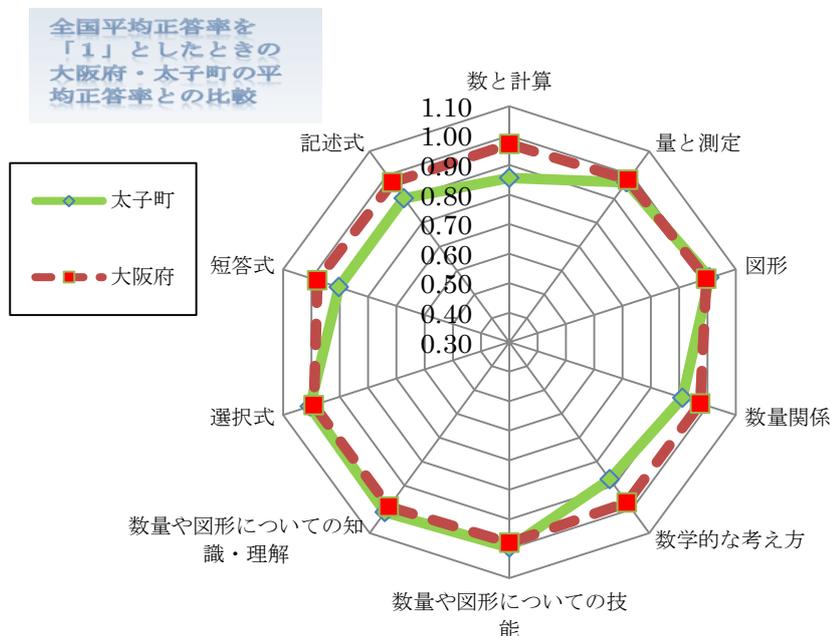
また、設問1の計算については正答率が高く、計算タイムや習熟度別授業などの工夫改善の取り組みの成果が出ている。

算数Aについては無解答率が比較的少なく、最後まで解答し分かろうと努力している。



記述すること、数学的な考え方の領域に課題が見られる。図形の領域は改善が見られた。

太子町平均正答率 55.0% 「平均正答率 全国比 -3.4Pts 大阪府比 -2.3Pts」



数と計算

★最も合理的な処理の仕方を選択し、理由を記述する [1(2)]

量と測定

★面積が等しくなることを言葉と数を用いて記述すること [3(2)]

★複数の条件すべてに当てはまる選択肢を判断すること [1(1)]

図形

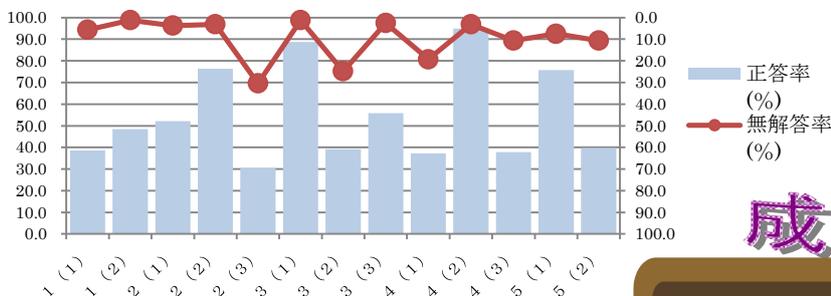
☆位置の表し方を理解し、特定する [4(2)]

数量関係

★根拠となる数値を示して記述すること [2(3)]

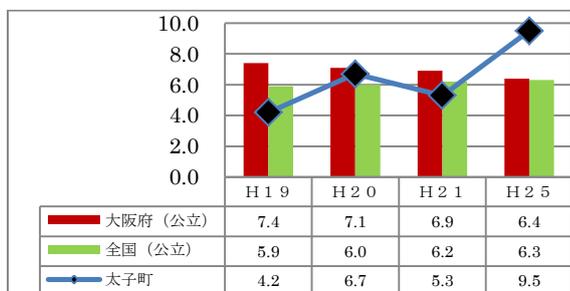
★割合が同じで基準量が増えているときの比較量の代償を判断し、その理由を記述する [5(2)]

☆ 設問別平均正答率と平均無解答率 ☆



成果と課題

無解答率の経年比較



今回の調査における太子町の無解答率はB調査において顕著に見られる。算数Bも同様に国・府の無解答率を上回る結果となった。

主として「活用」に関する問題が出題されるB問題について、依然として記述問題に課題が見られ、無解答率も、前回調査 (H21) より増加している。太子町の課題として特徴的なのが[設問3]の(1)と(2)である。(1)において面積が等しい選択肢を選んでいる児童は88.9%であるが、そのことを応用し、「言葉と数字を使って説明する」ことができる児童は39.1%と減少している。

一方、前年調査 (府学力学習状況調査) において課題であった図形の領域に関しては改善が見られた。

また、「割合」についても依然として課題が見られた。

今後、筋道を立てて考えた過程について振り返る活動の充実や、表の数値を根拠として2つの数量の関係を比較しながら説明するような学習方法が必要である。